

【茨城県】木内酒造株式会社 ～SDGsを経営のヒントに、持続可能な酒造りを木内酒造から世界へ～

企業概要

- 日本発のクラフトビールとして海外で圧倒的人気を誇る「常陸野ネストビール」を主力に、世界50カ国以上へ展開する江戸末期創業の老舗酒造メーカー。
- コロナ禍で大量廃棄されるビールを「クラフトジン」、「消毒用アルコール」へ生まれ変わらせるアップサイクルを実現。また、ビール製造において規格外とされる麦を原料にしたオリジナルウイスキーを考案、製造。同社のSDGsの概念に即した取組が国内にとどまらず、世界的に評価されている。

URL : <https://kodawari.cc/>

企業情報			
企業名	木内酒造株式会社		
代表者	代表取締役社長 木内 敏之		
設立年	1963年	従業員	50人
資本金	1,000万円		
業種	酒類製造業		
本社所在地	茨城県那珂市鴻巣1257		
事業概要	酒類製造・販売・飲食事業		
電話番号	029-212-5111		



木内酒造株式会社
木内代表取締役社長

SDGs達成を通じた取組



【経緯・背景等】

- 酒類製造という事業の構造上、産業廃棄物を多く排出してしまうことから社内で環境負荷低減への意識は高く、立地する茨城県という地域でエコな取組を推進できないかと検討をしていた。そこで、酒製造の過程で排出する米や麦の粕を畜産業者へ提供するなど地域企業と連携した取組を加速させ、地域における「循環経済」を実現させた。環境に配慮した取組等ノウハウが蓄積されたことで、SDGsの概念に即した事業展開を加速させている。

【具体的な取組、製品・サービス】

- 「SAVE BEER SPIRITS」
コロナ禍における営業自粛により、飲食店では大量のビールを廃棄せざるを得ない課題を抱えた。これを解決するため賞味期限が迫ったビールを集約、無料で蒸留を行い「クラフトジン」として返送する取組を実施。国内各所から集められたビールと飲食店等関係者の想いが、ぎゅっと詰まったクラフトジンが誕生した。
- 「BREWRIES UNITE FOR IBARAKI」
同様に、コロナ禍で工場から出荷されずに大量に蓄積されたビールを原料に、手指消毒用の高濃度エタノールを製造。県内に工場を立地するアサヒビールや麒麟ビールとの協力の元、両社の工場から集めたビールを当社工場にて蒸留、製造した手指消毒用高濃度エタノールには「UNITE FOR IBARAKI」の名を冠し、当時消毒用アルコールの入手に苦慮していた関係各社の工場が立地する自治体や医療機関等各種機関に無償提供した。
- ジャパニーズクラフトウイスキー「日の丸ウイスキー」
ビールを製造する過程で、規格外とされる大麦を活用したウイスキーを考案、2016年に本格始動させ自社ブランド「日の丸ウイスキー」が誕生。コアなファンによる口コミ等の広がりから、注文が殺到している。当製品は、原料等産地産地に拘り、ジャパニーズクラフトウイスキーとして世界展開を狙う。



SAVE BEER SPIRITSで
誕生したクラフトジン



廃棄ビールから消毒用アルコールへ！



日の丸ウイスキー

【取組んだ成果・効果】

自社取組が複数のメディアに取り上げられ、より一層の知名度向上に繋がった。SDGsの概念に即した製品は、昨今のエシカル消費のトレンドにヒットし、売上の向上に繋がっている。

【貴社にとってのSDGsと、その展望】

昔から酒類業界では、廃棄物を無くす取り組みが行われてきました。清酒の酒粕を蒸留して焼酎をつくる。ワインのしぼり粕からブランデーを作る等々です。ただ近年の商品開発競争で、それらがなおざりにされております。創業200年を迎える当社は、ごく当たり前に昔からの製法を検証し合理的な考えでものづくりを進めます。